

合同シンポジウムS4-6

飽和潜水員に対する健康診断から学ぶ ～MRIでの骨壊死スクリーニングを中心に～

山下敬子 村上和香奈 大矢守彦 三好秀明
原田英臣 宇宿浩子 端山幸裕 寺岡裕樹
只野 豊 小川 均

海上自衛隊 潜水医学実験隊

【はじめに】

減圧性骨壊死 (Dysbaric Osteonecrosis: DON) は潜水業務従事者のADLを大幅に低下させることから早期発見と潜水法の変更など早期対応が重要である。

画像検査としてはX線が一般的だがX線で変化が現れない時期の病変をMRIで検出でき、感度の面からもMRIは有用である。DONは同時に複数の骨が罹患することも多く、診断された症例、あるいは症状がある全ての減圧障害に対して早期にMRI検査を行うべきとの推奨もある。

【海上自衛隊の骨壊死検診MRI】

海上自衛隊の飽和潜水員は200～400mの深々度潜水を行い、大きな環境負荷がかかるため、規定の項目に加え、関節MRIを各潜水課程の入校前、以降3年間隔で以下の条件で試行している。

1996年から現在に至るまでに診断されたDONは2名である。

【まとめ】

骨壊死検診としてMRIは有用であり、減圧症発生時にも急性期のDONとの鑑別にMRIが有用である。

関節	方向	(開始時) Sequence	(H29改定後) Sequence
両股関節・両膝関節周囲 (大腿骨・脛骨骨幹部含む)	CO	T1, T2	T1, PDFS (+T2)
肩関節 (両側)	CO	T1, T2	T1, PDFS (+T2)